

2025年9月期第3四半期決算

MRI 三菱総合研究所

2025年7月30日

1 2025年9月期第3四半期決算

2 2025年9月期業績予想

3 トピックス

2025年9月期 第3四半期のまとめ

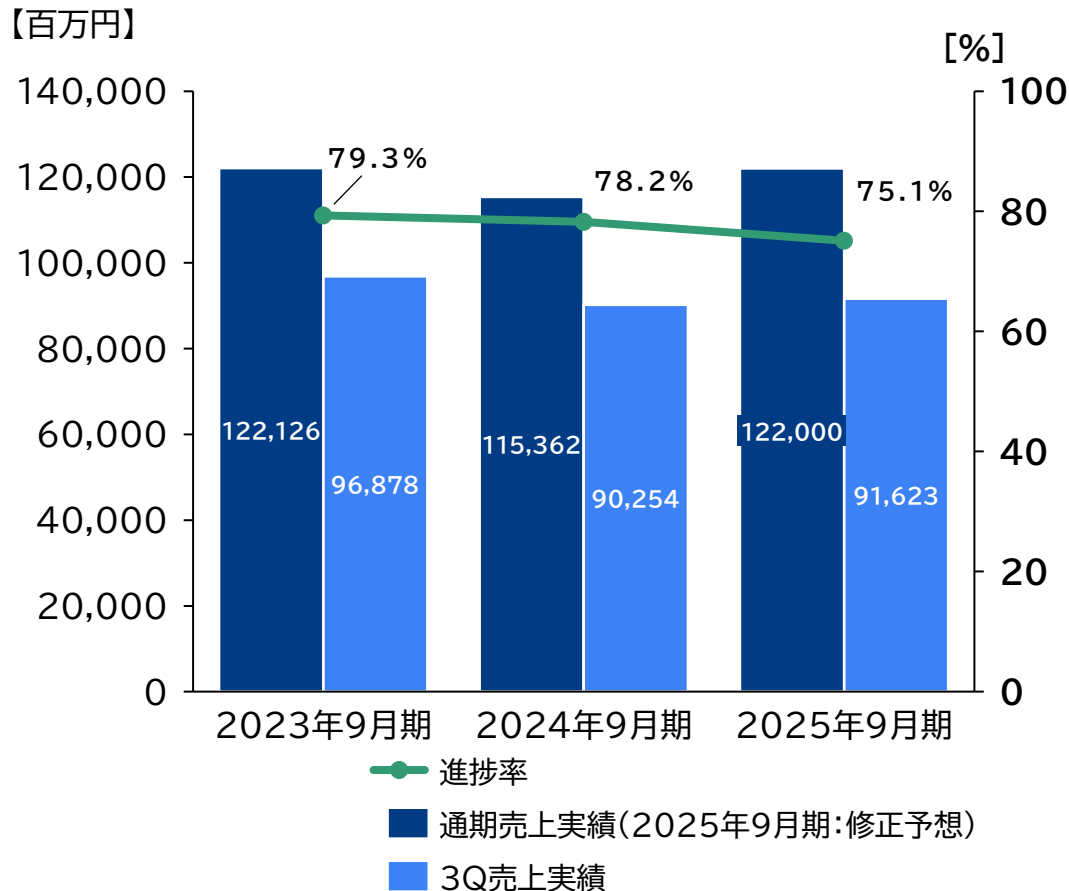
- 両セグメントの3Q案件伸長や経費抑制等により増収・増益
- 受注・受注残 前同比増による業績回復傾向

	実績	前同比
売上高	916.2億円	+13.6億円
	<ul style="list-style-type: none"> ● シンクタンク・コンサルティングサービス(TTC):1Qでの受注出遅れ・前期大型案件はく落を打ち返しきれず減収 ● ITサービス(ITS):金融・カード減少・不採算案件影響等を産業・公共分野の伸長等で打ち返し、増収 	
経常利益	82.5億円	+1.1億円
	<ul style="list-style-type: none"> ● TTC:利益率改善および経費抑制により増益 ● ITS:不採算案件影響等を産業・公共分野の伸長により挽回し、減益幅を圧縮 	
純利益	49.8億円	+1.3億円
	<ul style="list-style-type: none"> ● 新事業撤退に伴う特別損失等計上の一方、法人税等負担減 	

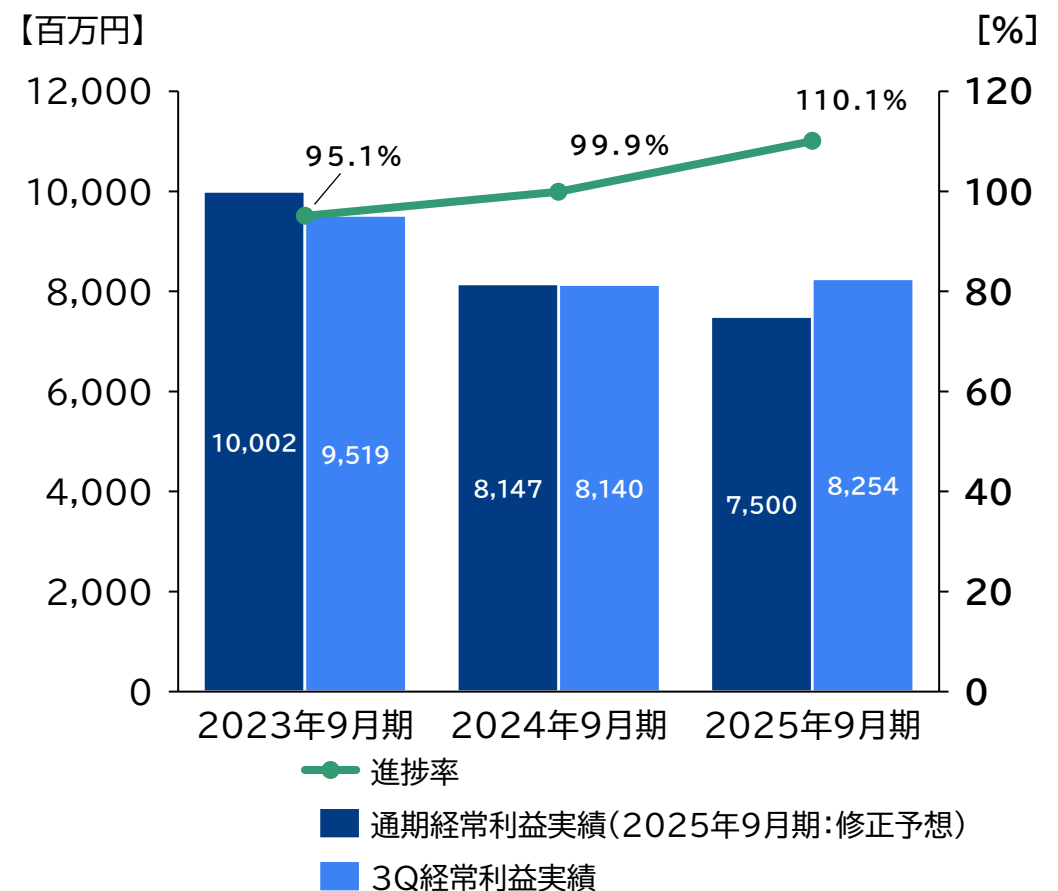
(参考)3Q進捗率の推移

- 業績予想に対する3Q進捗率は売上高75%、経常利益110%

売上高の3Q進捗率



経常利益の3Q進捗率



※計数はすべて概数、表示金額未満切り捨て

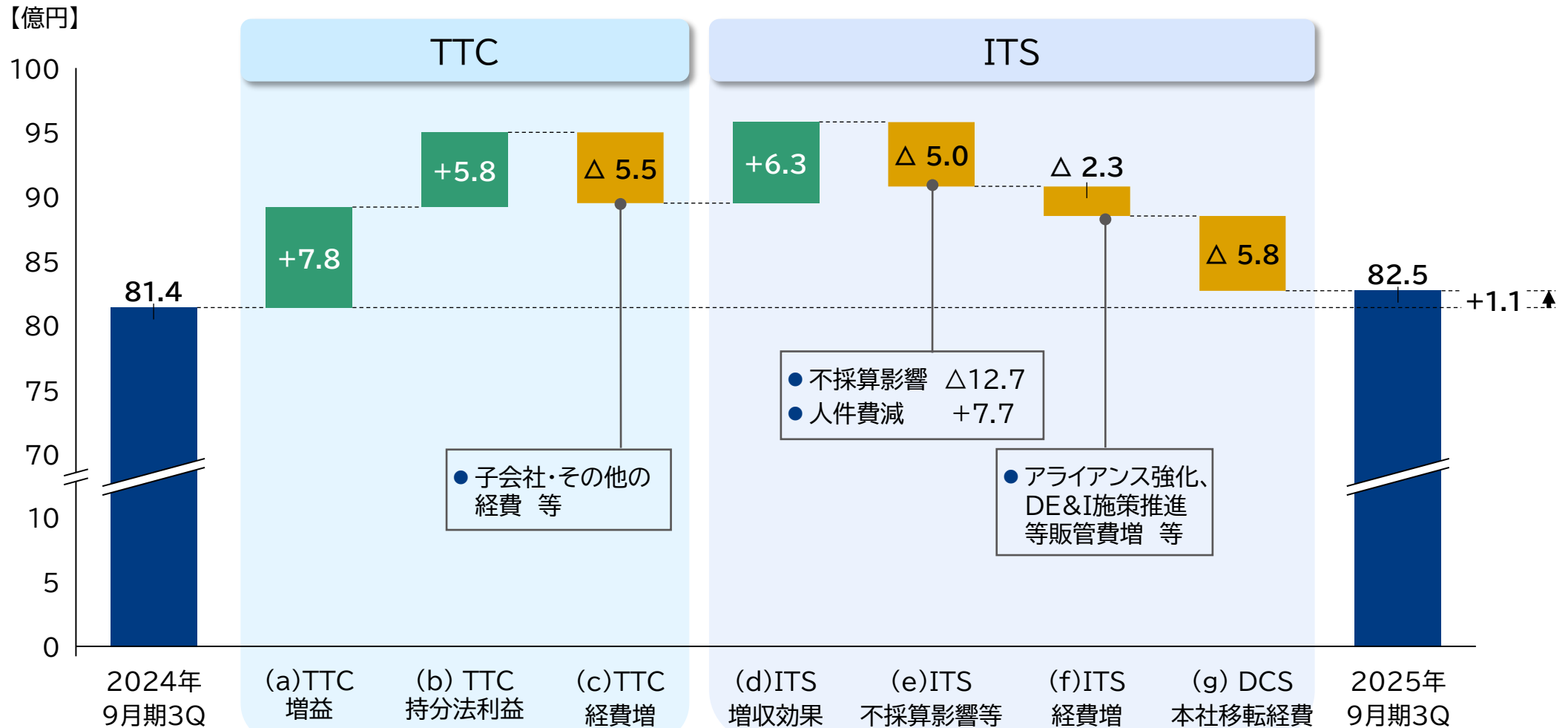
第3四半期連結決算 <前同比>

【百万円】

	2024年9月期 3Q	2025年9月期 3Q	前同比	
			増減額	増減率
売上高	90,254	91,623	+1,369	+1.5%
売上総利益	20,674	21,979	+1,305	+6.3%
売上総利益率	22.9%	24.0%	+1.1P	
販売費及び一般管理費	13,614	15,346	+1,731	+12.7%
営業利益	7,059	6,633	△425	△6.0%
営業利益率	7.8%	7.2%	△0.6P	
経常利益	8,140	8,254	+114	+1.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,850	4,987	+137	+2.8%
1株当たり四半期純利益(円)	306.28	316.73	+10.45	

経常利益の変動要因 <前同比>

- TTCは、3Q増益(利益率改善等)(a)・持分法利益(b)に加え、経費増(c)を抑制し、増収増益
- ITSは、増収効果(d)の一方、不採算案件影響(e)、経費増(f)、移転経費(g)で減益



シンクタンク・コンサルティングサービス(TTC)

【百万円】

	2024年9月期 3Q	2025年9月期 3Q	前同比	
			増減額	増減率
売上高	37,115	36,751	△363	△1.0%
営業利益	3,936	4,273	+336	+8.5%
営業利益率	10.6%	11.6%	+1.0P	
経常利益	4,751	5,569	+817	+17.2%
受注高	36,204	44,283	+8,078	+22.3%
受注残高	27,177	33,333	+6,155	+22.6%

主なポイント

- 3Qでの受注・売上伸長により上期から減収幅縮小
- 官公庁前期大型案件のはく落を、官公庁の情報・通信、サイバーセキュリティ分野伸長や、一般産業・金融カードの利益率改善、総合電機・通信・運輸・金融機関案件等により打ち返し、営業増益
- 持分法利益(+5億)により経常増益
- 受注高、受注残高ともに前同比大幅増、特に受注残高は官公庁向けAI・自動運転、デジタル・DX関連等の案件(前同比+51億)がけん引

ITサービス(ITS)

【百万円】

	2024年9月期 3Q	2025年9月期 3Q	前同比	
			増減額	増減率
売上高	53,139	54,872	+1,732	+3.3%
営業利益	3,119	2,377	△741	△23.8%
営業利益率	5.9%	4.3%	△1.6P	
経常利益	3,385	2,702	△683	△20.2%
受注高	55,515	58,714	+3,199	+5.8%
受注残高	49,601	53,447	+3,845	+7.8%

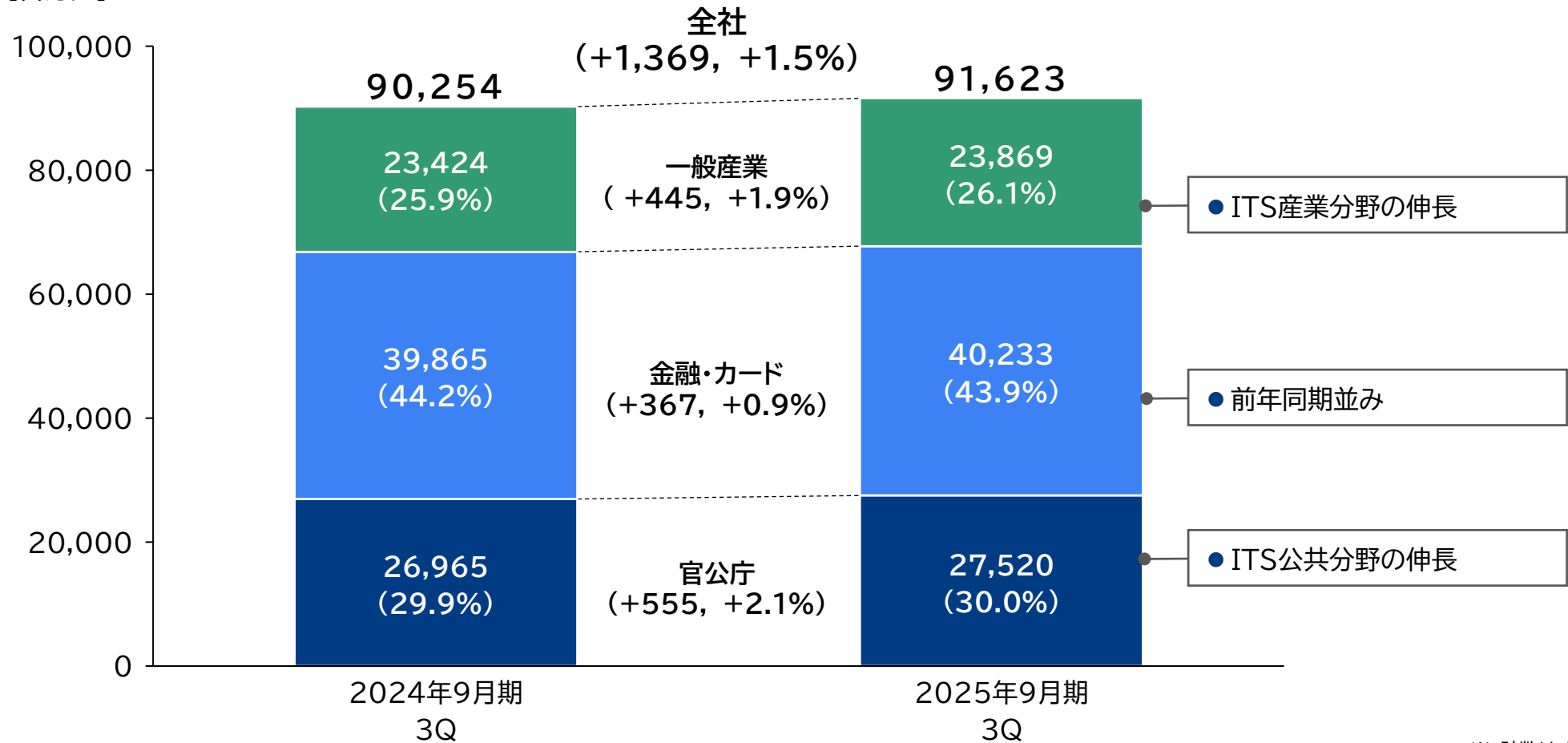
主なポイント

- 一般産業向けERP大型案件等や公共向けシステム案件(こども家庭庁など)等に加え、金融・カード分野の伸長により増収
- 本社移転費用(△5億)、上期不採算影響も、3Q期間(4~6月)中の増益により、上期減益幅を圧縮
- 受注、受注残高ともに前同比+30億超、受注は一般産業(+28億)、受注残高は全業種、特に金融・カード(+17億)がけん引

顧客業種別売上高 <前同比>

- 「官公庁」、「一般産業」、「金融・カード」の3業種すべてで増収
- 「官公庁」「一般産業」はITSの伸長が寄与

【百万円】



※ 計数はすべて概数

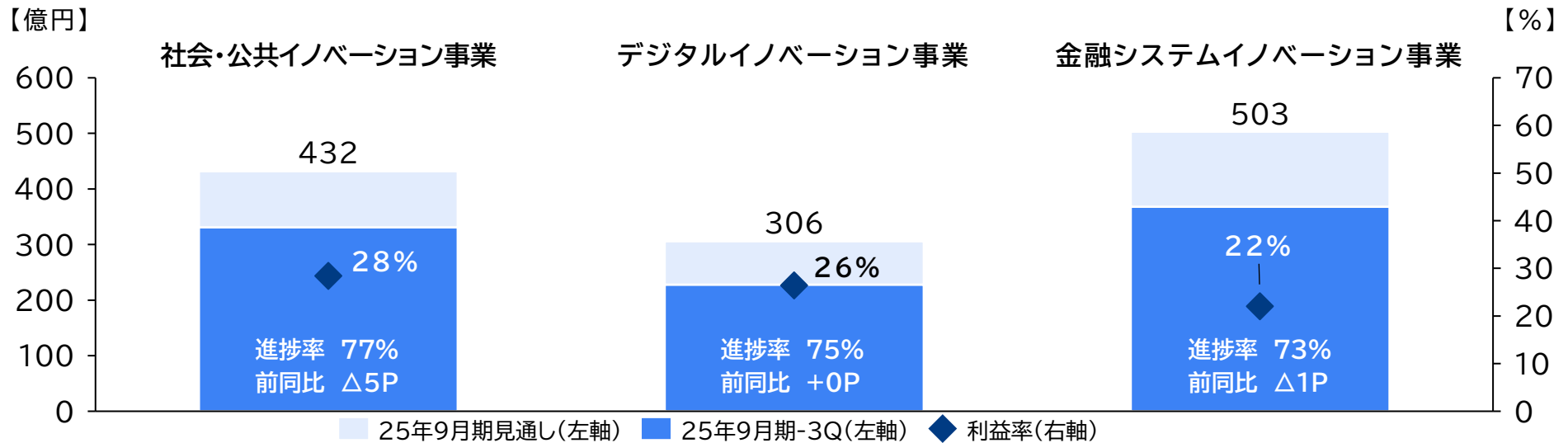
参考)セグメント別・顧客業種別売上高 <前同比>

【百万円】

		2024年9月期 3Q	2025年9月期 3Q	前同比	
				増減額	増減率
TTC	官公庁	26,354	26,166	△188	△0.7%
	金融・カード	1,797	1,977	+180	+10.0%
	一般産業	8,963	8,607	△355	△4.0%
	TTC 計	37,115	36,751	△363	△1.0%
ITS	官公庁	610	1,354	+743	+121.8%
	金融・カード	38,068	38,256	+187	+0.5%
	一般産業	14,460	15,262	+801	+5.5%
	ITS 計	53,139	54,872	+1,732	+3.3%
合計		90,254	91,623	+1,369	+1.5%

(参考)事業別の2025年9月期見通しと進捗

- 業績予想修正後の見通しに対し、
社会・公共、デジタル、金融システムの各イノベーション事業の3Q進捗は73～77%
- 社会・公共イノベーション事業の進捗率・利益率が他2事業を上回る



主要事業	2025年9月期-3Q 事業規模(進捗率)	利益率(前同比)	2025年9月期 見通し(修正後)
社会・公共イノベーション	331億 (77%)	28.4% (+1.4P)	432億
デジタルイノベーション	228億 (75%)	26.4% (△1.4P)	306億
金融システムイノベーション	368億 (73%)	21.9% (△1.4P)	503億

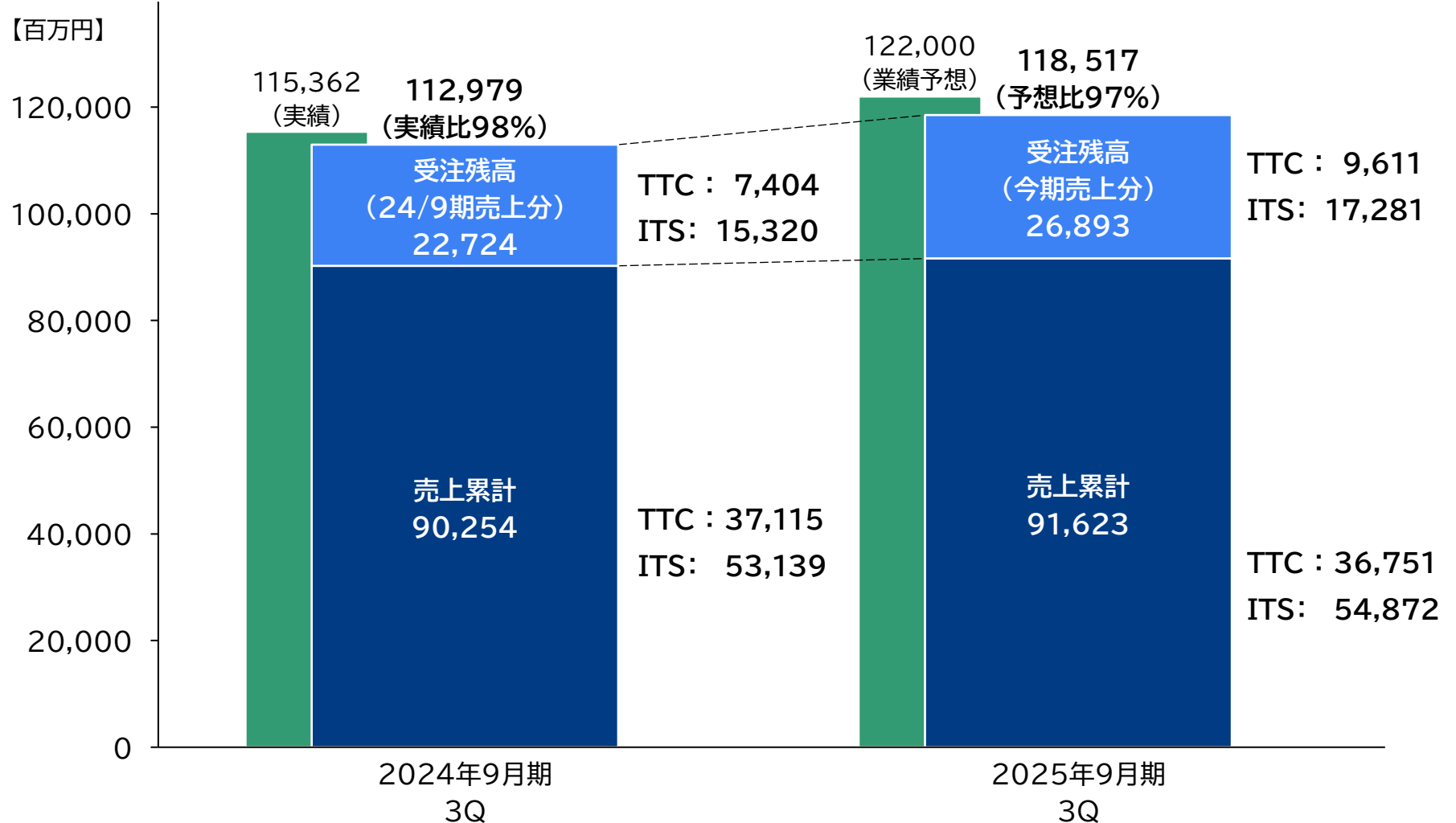
※ 社会・公共イノベーション事業とデジタルイノベーション事業には、一部連携して推進する事業を重複して記載

※ 利益率は粗利率

※ 計数はすべて概数

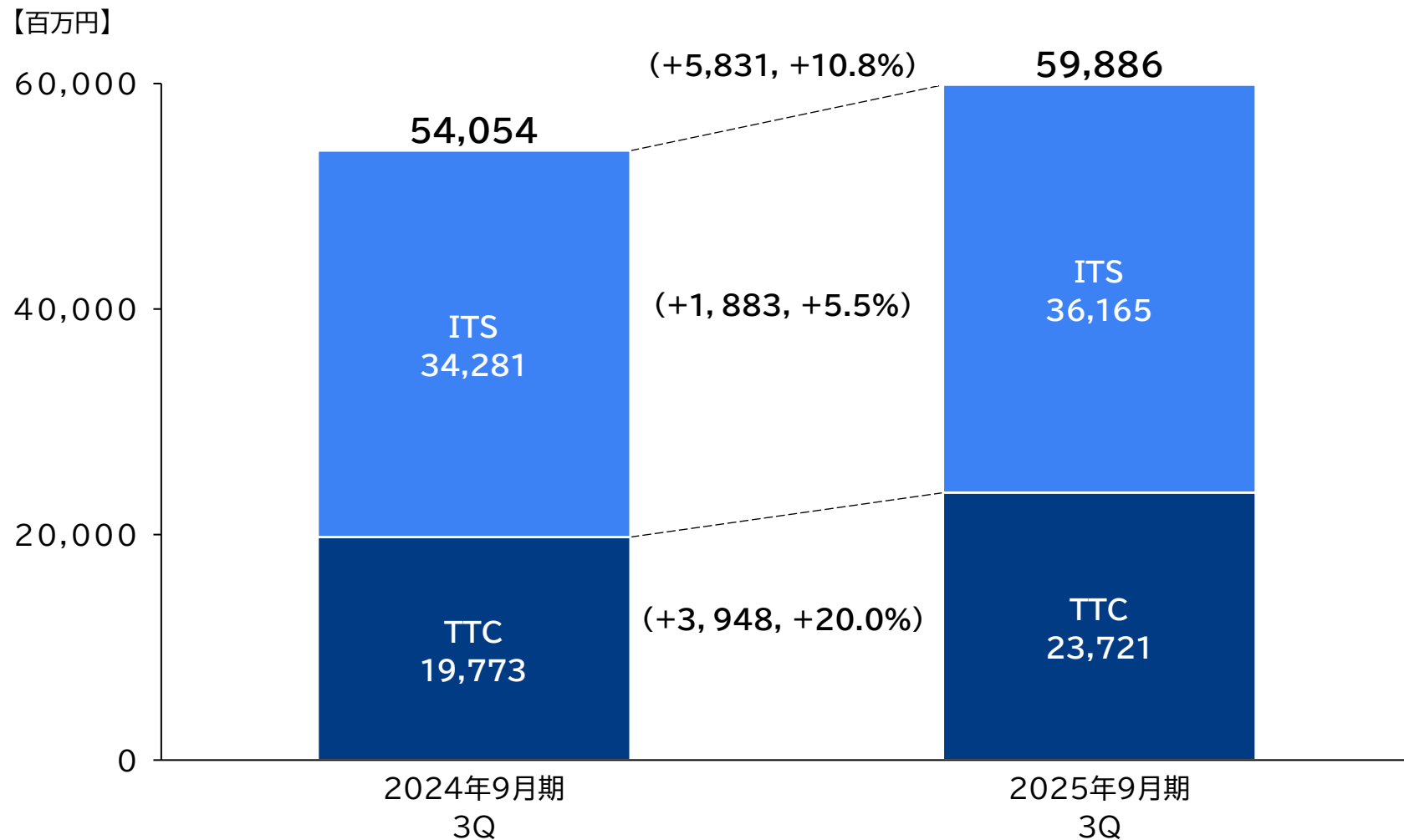
(参考)売上累計＋受注残高(今期売上予定分)

- 3Q累計売上に今期売上予定分の受注残高を加えた合計は、通期業績予想売上高の97%
- 受注残高は、前同比18.3%増の268億円
- 業績予想(1,220億)までの要受注・期中売上額は34億円(前同比+11億円)



(参考)受注残高(来期繰越)

- 両セグメントの受注積み上げにより、来期繰越分の受注残高は前同比+58億



1 2025年9月期第3四半期決算

2 2025年9月期業績予想

3 トピックス

2025年9月期 連結業績予想 (前回(2025/4/25)予想から変更なし)

【百万円】

	2024年 9月期実績	2025年 9月期予想 (2025/4/25)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	115,362	122,000	+6,637	+5.8%
シンクタンク・ コンサルティングサービス	45,419	48,000	+2,580	+5.7%
ITサービス	69,942	74,000	+4,057	+5.8%
営業利益	7,060	6,200	△860	△12.2%
営業利益率	6.1%	5.1%	△1.0P	
経常利益	8,147	7,500	△647	△7.9%
シンクタンク・ コンサルティングサービス	4,237	4,700	+462	+10.9%
ITサービス	3,909	2,800	△1,109	△28.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,003	4,100	△903	△18.1%
1株当たり当期純利益(円)	316.44	260.37	△56.07	

※ 計数はすべて概数

1 2025年9月期第3四半期決算

2 2025年9月期業績予想

3 トピックス

トピックス： 新・未来社会構想

研究・
提言

DX

HX

GX

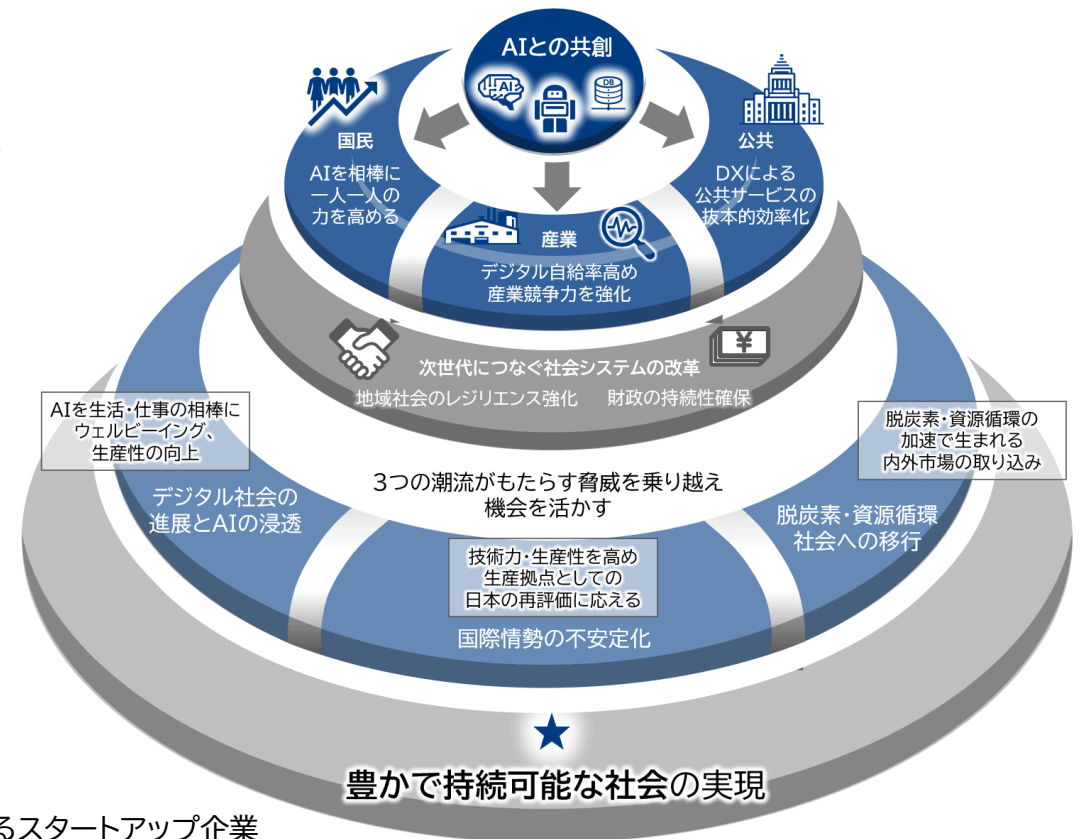
- 2025年5月26日公開
- 「[未来社会構想 2050](#)」(2019年)以降の世界情勢の変化をふまえ、新たな構想として発表
- 2040年を目途に、世界の潮流を機会として捉えつつ、日本が抱える課題を解決するため、AIなどのデジタル技術を活用した3つの処方箋を提示

<https://www.mri.co.jp/knowledge/insight/ecovision/20250526/>

- 1. AIを相棒に一人一人の力を高める：**
高度専門人材層、中間層、シニア層、それぞれがAIを活用し、労働需給のミスマッチ解消に繋げ、労働生産性を高める
- 2. デジタル自給率を高めて産業競争力を強化：**
日本が守るべき特定分野に集中投資するとともに「現場志向型DX」の推進と「グローバル・ゼブラ※」の創出を促進
- 3. DXによる公共サービスの抜本的な効率化：**
医療・介護、交通、インフラ等分野で課題起点のDXを導入、サービスの持続性を維持

※課題起点でイノベーションを起こし、長期成長を目指して世界で活躍するスタートアップ企業

AIとの共創で切り拓く未来



トピックス： 日本企業のDX推進状況調査・「MRI DXDAY」開催

DX

- 『AIファーストへのギアチェンジ』を公表(2025年6月4日、「DX推進状況調査」結果)
 - 売上高100億円以上の国内民間企業を対象、DXに関与する従業員1,000名が回答
 - 企業のDX成果が二極化
ビジネス変革で“成果を上げる”企業と、業務改善に留まり“成果が限定的”な企業
 - AI利用の現状と今後の展望から「AIファースト」への業務変革を提言
- 調査成果をふまえ、「MRI DXDAY」開催(2025年7月23日、WEB開催)
 - 実務におけるDX推進のノウハウについて、以下を支援事例とともに紹介
迅速で柔軟な経営判断
AIを活用した業務改革
AIを前提にした業務スタイルへの移行
 - 申込者数 1,200名以上
 - 8月・9月にアフターイベント実施
 - 当社サイトでアーカイブ配信



トピックス:最近のリリース

日付	タイトル
【社会・公共イノベーション事業関連】	
2025年7月10日	企業1万社を対象とした働きがいに関する実態調査の結果を公表
2025年6月26日	総務省「新東名高速道路の一部区間における自動運転レベル4トラック実証と連携したV2N通信を用いたユースケース実証に関する検討事業」を受託
2025年6月13日	三菱総合研究所とアステラス製薬、MEDISO事業のうち、創薬スタートアップ支援プログラムで提携
2025年6月13日	厚生労働省「医療系ベンチャー・トータルサポート事業(MEDISO)」を受託
2025年5月12日	洋上風力のポテンシャル海域を再分析 新たな自然・社会条件や漁業共生を考慮
2025年5月8日	無人航空機衝突回避システムの国際規格ISO15964が発行されました

トピックス:最近のリリース

日付	タイトル
【デジタルイノベーション事業関連】	
2025年6月26日	【DCS】DX調査レポート『顧客体験価値(CX)の現在地とこれから』を公表
2025年6月4日	日本企業のDX推進状況調査結果【2025年度詳細版】を公表
2025年5月7日	特許庁、「中小企業におけるデザイン経営の効果・ニーズに関する調査」報告書を公開

トピックス:最近のリリース

日付	タイトル
【シンクタンク事業(提言・発信)】【海外事業】	
2025年7月30日	<u>三菱商事と共同で「日本CDR協議会」を設立</u>
2025年7月23日	<u>【提言】自律的な循環経済の実現に向けて</u>
2025年6月30日	<u>2025年大阪・関西万博 開幕後、来場意向は急上昇、満足度7割超</u>
2025年6月27日	<u>タイ・バンコクで健康増進施策に関する日泰の官民共催セミナーを開催</u>
2025年5月26日	<u>【提言】新・未来社会構想</u>
2025年5月21日	<u>アジアの代表的なスタートアップ関係機関との協定覚書2件を締結</u>
グループ企業・ほか	
2025年5月29日	<u>【JBS】SAP Analytics Cloud 導入支援サービスを開始</u>
2025年5月29日	<u>【JBS】SAP Business Technology Platform 導入支援サービスを開始</u>
2025年5月22日	<u>【JBS】バンコクに「タイ駐在員事務所」を開設</u>

将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含めこれら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等は、これら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。

- 本資料に関するお問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所

グループ経営企画部 IR室

E-mail : ir-info@ml.mri.co.jp

URL : www.mri.co.jp/

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI 三菱総合研究所